

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>(1)生徒の多様なニーズに応じた柔軟なカリキュラムを展開する。</p> <p>(2)三修制の学習機会を充実させる。</p>	<p>(1)1年生に関して早い時機に個別指導が必要かどうかを判断し、取出し授業や個別指導を行うなど柔軟なカリキュラムを展開する。</p> <p>(2)3年間での卒業を目指す生徒のために、通信制高校との連携や学校外の学修による単位認定制度を活用するほか、学校設定科目を設定することで生徒の学習意欲の向上を図る。</p>	<p>(1)個別学習指導が必要な生徒の把握を十分行ない、取出し授業の実施や個別指導プログラムを作成できたか。</p> <p>(2)三修制の学校設定科目を設定し、制度についてのガイダンスを十分に行うことで、20人以上の生徒がこれを希望し学習意欲の向上につながったか。</p>	<p>(1)前年度のケース会議で個別授業対象生徒を確定し、年度当初のケース会議で、個別指導プログラムを作成することができた。</p> <p>(2)三修制の学校設定科目を新たに3科目設置し、通信制高校連携の定通併修科目と併せて、14人が年間を通じて学び通すことができ、意欲の向上へつながった。三修制を利用し今年度卒業する生徒は、16人となった。</p>	<p>(1)個別指導プログラムにおいて、効果的な目標達成に向け、さらに教科間で連携が必要とされる。また常勤の教員が個別授業を行うことで、非常勤講師が通常クラスを担当することになり、授業を通じての生徒指導や学習の継続性に課題が残る。</p> <p>(2)三修制の学校設定科目は、定通併修科目と異なり、授業時数を多く設定する必要があり、全日制の授業時間帯にも組まなければならないので、全日制との調整が必要で、設定しにくい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○個々の生徒の学力に対応したきめ細やかな指導がなされており、保護者として安心して子どもを預けることができた。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○多様な生徒の実態に即してたいへんきめ細やかな指導を行っており、個別指導プログラムを作成するなど個々の生徒への支援がなされている。</p> <p>○三修制での卒業生が16名と成果を上げていることは評価できる。その一方「ゆっくりじっくり」という定時制の理念との折り合いをどうつけるか、検討が必要である。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○ケース会議を通じて情報を共有し、個別指導プログラムを作成することで、個々の生徒の実態に即した指導・支援を効果的に行うことができた。</p> <p>○三修制が定着し、生徒の学習意欲の向上に繋がった。次年度に向けて定通併修科目のみに絞ったことで全日制との時間調整もスムーズになる見込みである。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○今後はチームティーチング等、授業形態も検討し、よりきめ細かな指導に繋げたい。</p> <p>○「ゆっくりじっくり」という理念との折り合いについては今後検討を重ねていく。</p>

<p>(1) 生徒個々に応じた教育相談体制を充実させる。  (2) 生徒指導の徹底により、ルールやマナーを尊重する態度と規律ある学習環境を構築し、生徒が安心できる学校環境を整える。</p>	<p>(1) ①教育相談コーディネーターと養護教諭が中心となり、定期的なケース会議を行う。  ②生徒の日常の様子、出席状況等をきめ細かく把握し、保護者への連絡を密にとる。また、面談週間を各学期に設定し、本人・保護者の相談に対応する。  (2) ①日常的な巡回指導により、生徒との信頼関係を構築するとともに、安全・安心な校内環境を築く。  ②授業や学校行事など、様々な場面で規範意識を高める工夫を織り込む。</p>	<p>(1) ①ケース会議、拡大ケース会議を定期的に行ない、教職員全員で生徒情報を共有し、個別の支援体制を充実させることができたか。  ②日常生活や出席状況・欠課時数等を保護者に定期的に連絡することにより、保護者との協力関係が築けたか。  (2) ①巡回指導により落ち着いた校内環境を築き、問題行動の減少につながることができたか。  ②様々な場面での取り組みが生徒の規範意識の向上につながり、学習環境を整えることができたか。  (生徒アンケート)</p>	<p>(1) ①ケース会議は必要があればすぐに開催できる体制が構築された。問題発生から情報の共有、対応策、保護者との連絡といった対応が迅速、適切になされている。  ②各学期末における三者面談の実施が定着し、日常的な生徒の学校生活の様子を定期的に保護者に知らせることができた。その結果、校内での生徒の安定した生活習慣が確立できた。  (2) ①②新入生に関しては、校内外の巡回により授業に取り組む姿勢が改善され落ち着いた授業ができるようになった。また、「生徒による授業評価」で授業中の学習環境を自ら分析することにより、授業に集中して取り組む態度が醸成された。</p>	<p>(1) ①教育相談コーディネーターの職員がグループやセクション業務及び担任の業務も行っているため、ケース会議開催について養護教諭の負担が重くなっている。次年度以降、早急な業務分担の見直しや工夫が必要である。  ②連絡が取りにくい保護者、学校に出向くことが難しい保護者への連絡がスムーズにいかないため、いかにして協力体制を構築するかが課題である。  (2) ①②校内での問題行動は減少しているが、校外での問題行動が増加傾向にある。校内行事への参加に関しては積極的に取り組もうという姿勢が見られ、「ルールを守る」等の意識が醸成されつつあるが、更に徹底を図る必要がある。授業への取組も同様の傾向が見られる。また、今年度は重大な交通事故が複数発生してしまったことから、交通安全指導の体制を見直し、効果的な取組を行っていく。</p>	<p>(保護者)  ○教育相談体制が充実しており、保護者とも連携して迅速な対応がなされている。  ○ルールやマナーを尊重する態度が育成され、落ち着いた学習環境が実現されてきた。  (学校評議員)  ○さまざまな事情を抱えた個々の生徒に対応できるよう、養護教諭を中心に相談・支援体制を構築している。今後も工夫を重ねて充実した相談・支援体制を継続してほしい。また、保護者との連携も不可欠であり、協力体制構築に向け検討を重ねてほしい。  ○粘り強い生徒指導が功を奏して、学校が落ち着いた。校内行事への参加等を通じて規範意識も向上してきており、今後は地域との連携を推進することで、より一層落ち着いた学校生活が送れるような環境整備に努めてほしい。交通安全指導体制の見直しには早急に取り組んでもらいたい。</p>	<p>(学校評価)  ○個々の生徒への相談・支援体制が整い、迅速な対応ができています。保護者との連携も適切になされている。  ○巡回指導等粘り強い生徒指導を重ねた結果、落ち着いた学習環境が整いつつある。  (改善方策等)  ○一部連絡が取りづらい保護者との協力体制の構築についてはまだ課題が残り、今後更なる検討が必要である。  ○今後は「生徒による授業評価」等を参考に、生徒が主体的に取り組める授業づくりをより一層推進していく。また、交通安全指導に重点を置き、効果的な取組について早急に検討する。</p>
--	--	---	--	--	--	--

<p>(1) 基礎学力の定着を図るため、新たな授業展開を開発する。</p> <p>(2) 社会生活に必要なコミュニケーション能力を高く取り組む取り組みを充実させる。</p>	<p>(1) ①学校全体で共通のテーマを設定し、校内研修会で課題を共有する。</p> <p>②基礎学力と学習習慣を定着させるため、昨年試行した1年生を対象とした新たな学習形態を継続・発展させる。</p> <p>③長期休業中の課題や補習方法を改善し内容を充実させる。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間等を利用し、生徒相互のコミュニケーション能力を高める。</p>	<p>(1) ①学校全体で共通のテーマを設定し、校内研修会で課題を共有することによって授業改善に繋げることができたか。</p> <p>②1年生を対象とした新たな学習形態を継続・発展させることができたか。</p> <p>③長期休業中の課題や補習が昨年度より充実したものとなり、受講者が昨年度実績を上回ることができたか。</p> <p>(2) 「総合的な学習の時間」の中で、生徒が自ら考え、判断して自分の考えを伝えることができたか。</p>	<p>(1) ①「生徒による授業評価」の結果の総括に基づき、教科ごとの課題を情報共有することにより今後の授業改善の一助とした。</p> <p>②モジュール授業を行ったことで各教科において高校の授業にスムーズに導入でき、かつ主体的に学習に対して取り組む姿勢を身につけさせることができた。</p> <p>③夏季休業中に1年生には基礎学力の定着、2～4年生には学力アップを目途とした講座を行い、自らの達成度に合わせて各教科が用意した教材に取り組ませることで学力向上に繋がった。</p> <p>(2) 「総合的な学習の時間」にさまざまな講座やワークショップを行い、その中で「他者の話をきちんと聞く」「自らの意見を述べる」といった体験を積み重ねることを通じてコミュニケーション能力を育成した。</p>	<p>(1) ①授業改善に関して職員間の意識の向上が見られたが、常勤職員と非常勤職員のギャップはどうしても出てしまっている。</p> <p>②モジュール授業に関して通年での取組ができないことが課題である。また、モジュール授業の利点を活かした授業展開を取り入れるような授業内容の方向性も必要である。</p> <p>③夏期休業中の講習に関しても希望者の参加が主だが、指名した生徒を参加させることも視野に入れない。</p> <p>(2) 講座やワークショップへの取組姿勢に差があり、参加に消極的な生徒もいることから、より効果的な取組になるよう、今後更なる工夫をする必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○授業改善への取組を通じて基礎学力が定着し、学習習慣が身に着いてきた。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○「生徒による授業評価」の結果を見ても、授業改善への取組が効果が上がっていることがわかる。また、モジュール授業が定着し入学後にスムーズに高校の授業に導入できている点、取り出し授業等生徒の実態に即したカリキュラム展開を行っている点は高く評価できる。また、夏季休業中の講習への参加等生徒が主体的に学ぶ場面も多く、今後更に発展させていただきたい。</p> <p>○「総合的な学習の時間」を通じてさまざまな取組を行っており、生徒のコミュニケーション能力の育成に効果を上げている。今後も継続して取り組んでほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○授業改善について、教科内での情報共有を密にすることで非常勤職員も含めた取組を推進する。また、モジュール授業や夏季講習などを活用し、個々の生徒の基礎学力を向上させられるよう、引き続ききめ細やかな指導を行っていく。</p> <p>○「総合的な学習の時間」では、さまざまな講座やワークショップを行うことで生徒が自ら考え判断する場面を設定することができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○「総合的な学習の時間」においては、コミュニケーション能力の育成により力点を置いた取組を推進する。</p>
--	--	--	---	---	---	--

<p>(1) キャリア教育をさらに充実させ、生徒個々の進路意識を高める。</p> <p>(2) 集団の中の社会性を培うため、生徒主体の行事や活動を支援し、自己肯定感を高める。</p>	<p>(1) ① 1～3年生に対する多様なガイダンスを企画・運営し、キャリア教育実践プログラムを体系的に実施することで生徒の進路に対する意識を向上させる。</p> <p>② 4年生の進路指導の日程を早めに設定する。</p> <p>(2) 生徒の主体的活動の場や発表機会を設け、多くの生徒の学校行事への参加を促す。</p>	<p>(1) ① 1～3年生の生徒の進路に対する意識を向上させることができたか。</p> <p>② 就職希望者が確実に就職できたか。</p> <p>(2) ① 生徒主体の活動の場（生徒会・部活動発表等）を設定し、内容の充実が図れたか。</p> <p>② 学校行事に8割以上の生徒が参加したか。</p>	<p>(1) ① ここ数年で1年生から3年生までの段階的なキャリア教育実践プログラムが軌道に乗ってきており、生徒の進路に対する意識が格段に高まった。</p> <p>② 就職希望者の内定率が飛躍的に向上している。</p> <p>(2) ① 生徒会行事及び校内行事(研修会等含む)について、生徒会執行部を中心に生徒主体で企画運営する姿勢が見られ、内容を充実させることができた。</p> <p>② 学校行事への参加率は80%以上を達成している。</p>	<p>(1) 4年間の段階的な流れの中で計画されている進路指導は定着しているが、すべての生徒が流れに乗っている訳ではない。就職内定率や進学率は確かに向上しているが、精神的に不安定な生徒や学習障害を抱えている生徒に対する進路保証も実績を上げていかなければならない。</p> <p>(2) 学校行事への参加率は目標を達成でき、生徒の取組姿勢も良好であることから、今後はより多くの生徒が生徒会活動や部活動に積極的に関われるよう働きかけていく。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○ キャリア教育実践プログラムによって、在学中に体系的なキャリア教育を受けることができ、就職率の向上等成果が実感できた。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○ キャリア教育実践プログラムが軌道に乗り、入学時から卒業までを見通した指導が行われている。就職率が飛躍的に伸びるなど、成果が目に見える形で現れており、今後プログラムの更なる充実が望まれる。</p> <p>○ 学校行事において生徒相互の協力姿勢や社会性の向上が見られた。また、取組姿勢にも積極性が感じられ、今後は楽しみである。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○ キャリア教育実践プログラムが定着し、生徒の自らのキャリアに対する意識を向上させることができ、内定率の向上など成果に結びついた。</p> <p>○ 学校行事への参加率は年々向上しており、目標を達成できているので、今後は生徒主体で学校行事を企画運営する場面を増やし、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○ 今後はより多くの生徒の進路保証を視野に入れ、課題を抱える生徒への進路支援を充実させる必要がある。</p> <p>○ 生徒会役員を中心に、各種行事を主体的に企画・運営する場面を増やしていく。</p>
---	--	--	---	--	--	--

<p>(1) 保護者や地域との連携を深めると同時に、外部人材の活用を推進し、教育活動を効果的に展開する。</p> <p>(2) ホームページ、学校案内等の広報活動を充実させ定時制への理解を深める。</p>	<p>(1) ①メール配信の積極的な利用により保護者への連絡を密に行い、授業等の見学や学校行事への参加を促す。</p> <p>②卒業生や保護者、地域の人材を活用した学校支援ボランティアの制度を立ち上げる。</p> <p>(2) ①学校案内やホームページ等を活用して生徒の活動や活躍を紹介し、本校定時制の教育活動を広く発信する。</p> <p>②広報用の学校案内をさらに充実させる。</p>	<p>(1) ①学校への保護者の来校数が増加したか。(保護者アンケート)</p> <p>②外部人材を活用するための校内規定や校内体制が整っているか。</p> <p>(2) ①学校案内等を通して生徒の活動を積極的に広報することができたか。</p> <p>②学校案内をさらに充実させ、本校への理解を深めることができたか。</p>	<p>(1) ①各学期ごとの三者面談により保護者との意思の疎通、問題点の共有が十分になされた。また、PTA活動も充実し校内行事の際の保護者の参加も多く見られた。</p> <p>②進路指導に際し、面接指導等外部の方にボランティアという形で協力を仰ぎ成果を上げた。</p> <p>(2) ①ホームページを見やすくし、充実させることにより、広く本校について情報を発信し広報することができた。</p> <p>②学校案内のパンフレットを今年度用に作成した。写真も新たに、見やすいように変更した。</p>	<p>(1) ①保護者が単身家庭の場合なかなか予定が合わないことで面談ができていないケースがみられる。</p> <p>②いろいろな形で外部人材を活用したが、今後校内規定の策定等組織的な対応を必要とする必要がある。</p> <p>(2) ①ホームページを誰にでも改訂できるようなソフトで作成できないか。また、同じ内容でも限られた容量の中で更なる厳選をし生徒の活動を積極的に広報していく。</p> <p>②新たな学校案内パンフレットを積極的に活用し、本校への理解に繋げていく。特に中学校への広報を工夫し、定時制課程や本校についての理解を深めてもらえるようにする。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○各種配付文書やメール配信による学校からの連絡を通じて学校の様子を細かく知ることができ、協力体制の確立につながった。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○学期末の三者面談を通じて保護者との情報共有がなされているのは好ましい傾向である。また、進路指導や「総合的な学習の時間」において、外部人材を活用しており、一定の成果を上げている。</p> <p>○ホームページや学校案内を分かりやすく改訂しており、外部に向けた発信に役立っている。今後更に改良を加え、より充実させてほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○保護者との連携については、日常的な情報共有が行われており、生徒へのきめ細かな指導に効果を上げている。</p> <p>○定時制についてより広く情報発信するためにはホームページや学校案内の充実が不可欠であり、担当セクションを中心に積極的に取り組んだ。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>○職員が減少傾向にあるので、外部人材の活用については今後益々必要になると思われ、校内体制の整備について早急に対応する必要がある。</p> <p>○学校説明会等のあり方について改めて検討する。</p>
--	--	--	--	---	---	---

<p>(1) 新たな教育活動を展開するとともに、その検証により学校運営の改善に取り組む。 (2) 事故・不祥事の防止を徹底することで信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>(1) 従来の課題や新たな取り組みについて検討を重ね学校改善につなげる。 (2) 生徒指導や教育相談、事故・不祥事の防止に係る教員対象の各種研修会を企画・実施する。</p>	<p>(1) 学校の課題と改善方策を明らかにする中から新たな取り組みを企画し、学校改善につなげることができたか。 (2) 各種研修会を通して教員がさらにスキルを高めることができたか。また、事故・不祥事ゼロプログラムを効果的に実施し、事故防止が図れたか。</p>	<p>(1) グループ全体で必ず年間の振り返り検証をすることにより、各種内規の見直しや改善をタイミング良く行うことができた。 (2) 「事故・不祥事ゼロプログラム」に基づき、教員対象の研修会を毎月行い、事故・不祥事防止に繋げることができた。</p>	<p>(1) セクションやグループ会議を持ち、十分な意見交換ができたが、より一層の意思疎通のために職員全体での意見交換が求められている。 (2) 職員が当事者意識を持って事故・不祥事防止に取り組めるよう、更なる工夫を重ねる必要がある。</p>	<p>(保護者) ○ P T A 役員を中心に学校の課題を共有することで学校改善につなげることができた。</p> <p>(学校評議員) ○ グループやセクションで年間の検証を行っており、次年度に向けた業務改善に反映されているのは評価できる。 ○ 「事故・不祥事防止プログラム」に基づいた各種研修会を行っており、効果を上げている。</p>	<p>(学校評価) ○ 学校運営の改善に向けた検証や振り返りを行い、業務改善に繋げることができた。次○事故・不祥事防止会議を定期的に行うことで、職員の注意を喚起することができた。</p> <p>(改善方策等) ○ 学校改善については、次年度に向け更に検証を重ねていく。 ○ 事故・不祥事防止については、より効果的な取組になるよう内容について精査していく。</p>
---	---	--	--	---	--	---